DOHO Smile & Communication

DSC2

同朋高等学校
学校通信
Vol.193

修学旅行特集

早いもので今年も卒業の季節を迎えました。

卒業はその文字の通り「業（ぎょう・わざ）」を「卒（お）える」ということです。

今までの取り組みを一段落させて新しい旅立ちをする、その一歩でもあります。

おそらく多くの生徒は胸を張って「3年間、よかった」と言うことでしょう。

いつまでも懐かしく思い出され、しばらくは高校の名残から抜け出せないかも知れません。

……次にどんな「思い出」を重ねていくのか、これからの諸君の人生を見守りたいものです。

学校長　井戸　裕久

DSC2 学校通信
DOHO Smile & Communication
Vol.193 15 FEB. 2014
同朋高等学校 学校通信編集委員会 名古屋市中村区稲葉地町7の1 TEL 052-411-1159

卒業生へのメッセージ Congratulations!

「人生にキセキを起こそう!!」
教職員一同

本日、363名の生徒が同朋高校を卒業します。3年間、卒業生を見守り、育み、時に厳しく指導された担任の先生方より、卒業生のみなさんに対しお祝いのメッセージを寄せていただきました。

「凡事徹底」と「人にやさしく」
3年間、みなさんは猛スピードで成長していきました。毎日の変化は少しでも、ハッと気づいたときには大きく変化していて驚かされました。大人気ないかもしれませんが、成長の度合いという勝負では完全に負けていると悔しい気持ちがあります。でも、まだまだこれからです。卒業して、それぞれ新しい環境でピッカーンと輝いて下さい。
どんなに苦しい状況でも笑顔を忘れずにね。
いつか再会したときに、たくさんお土産話ができるように。楽しみにしています。

302 担任　松田　浩史

長いようで短い3年間でした。しかし、この3年間で得たものは、きっと今後の人生の支えになってくれるはずです。みなさんはこれから、無限の可能性を抱いて、それぞれの道に進みます。時には困難にぶつかることもあるでしょう。そんなときには、同朋高校でがんばったことを思い出してみてください。そして、共に学んだみんなもがんばっているのだと思い描いてください。きっとうまくいきます。みなさんの活躍が聞こえてくる日を待ちながら、送り出したいと思います。卒業おめでとう。

303 担任　坪内　翼

卒業生諸君へ！
①体の不調を治す
②甘えを捨てる
③悩みをわざわざつくらない
④自己中心的にならず他人を思いやる心を持つ
⑤強く賢く生きる
など他にもいくつかあるけれど、これからの人生に奇蹟をおこすための教訓を忘れないでください！
See you again!

301 担任　高橋　誠一

「人生に無駄なし！」
卒業おめでとう。これから皆さんが歩んでいく人生にはさまざまな出来事が待ち受けています。良いことばかりではありません。悪いこともあります。しかしそれらすべては皆さんにとって必要なことであり、必然の出来事です。と考えるならば、すべてを受け入れ、何事にも誠実に一生懸命取り組むことが、人生を素敵なものにさせると思うのです。また会える日を楽しみにしています。

305 担任　林　雄二

ご卒業おめでとうございます。君たちと初めて出会った入学式がもう3年も前のことと思うと、月日が経つのは早いものですね。この3年間をどう過ごしたかは人それぞれ違うと思います。しかし、時間だけは何があっても皆平等です。限られた時間をどう過ごしていくかを常に考え、積極的に多くの体験を行えば必ず大きく成長します。卒業はあなたの人生の新たな出発点でもあります。これまでの経験を活かしながら新たに吸収して、豊かな人生を歩んでください。そして将来また同朋に戻ってくることを楽しみに待っています。

306 担任　鬼頭　大信

人は変われる生き物。性格だって行動パターンだって、まだまだ変化し続けます。自分の枠を早々に作ってしまわないで下さい。いろいろな出会いと、挑戦や失敗を経て、今これからもあなたは変わっていく。楽しみだね。
卒業おめでとう。

304 担任　山中　裕香子

卒業おめでとう！でも高校の卒業は、社会進出へのスタートです。
今の自分に可能性を感じるなら、それをどんどん伸ばそう！
今の自分に不満があるなら、ゼロから出直してみよう！
だって今まで生きてきた人生の何倍も生きていくのだから…
たとえゼロ歳からやり直しても、その方が幸せな期間が長くなるよ！
頑張れ！

307 担任　湊　俊夫

卒業おめでとう！
308のみなさんと過ごしたのは3ヶ月ほどでしたが、卒業直前という大切な時間に関わることができて貴重な体験になりました。中村先生の代担として突然現れた私をすんなりと受け入れてくれて助かりました。みんなの優しさを感じましたよ。
朝と帰りに教室に行って笑ったり怒ったり…。この歳になると、高校生から生きる力をもらって私は生かされているのだなあと思います。短い時間でしたがありがとう。
同朋高校で学んだことや育んだ友情はきっとこれからの人生の糧になります。自信を持って進んでください。
あなたの新たな一歩に幸あれ。

308 担任代行　柘植　さとみ

お疲れ様でした。よく頑張ったね。
1時間1時間の授業は長かったかもしれないけど、3年間は意外と短く感じませんでしたか。僕にとって、同朋での最初の卒業生。思い出がいっぱいです。すごく楽しかった。ありがとう！
同朋での3年間を、ここで経験したすべてのことを踏み台にして、最高の未来をつかみ取って下さいね。先生たちは、いつまでもみんなの味方です。
（まじめカッ！）

309 担任　安東　竜

卒業おめでとうございます。
みんなとの出会いは2年前。今までの人生の中でいくつかの分岐点がありました。選んだ道に後悔し、戻りたいなって思ったことが何度かありました。しかし、不安や困難なこともあったけれど、今の人生を歩んできたからみんなに出会うことができました。一歩一歩、きちんと踏みしめて歩き続ければ、必ず幸せを感じることができると思います。
笑顔を絶やさずにね!!

310 担任　宇佐美　亜季

Schedule〈行事予定〉

2月		
16	土	卒業式
26	水	2年生音楽科学年末考査（～3月3日）
3月		
2	月	学年末考査（～3月7日）
7	金	2年生音楽科オーストリア修学旅行（～3月13日）
11	火	2年生卒業生を囲む集い
17	月	進級判定発表
20	木	修了式
4月		
5	土	在校生登校日
7	月	入学式
8	火	始業式

平成25年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定しました

保護者の皆様には、ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育にご支援を賜りありがとうございます。また、本校体育館など地域ごとに開催された「地域別県民文化大祭典　オータムフェスティバル」へのご協力や請願署名など、私学助成金増額の運動にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、平成25年度の愛知県私立学校経常費補助金の交付額が406,234千円（生徒一人当たり補助額35万2940円）と決定しましたのでご報告します。県の財政状況悪化のなかでの補助金交付に感謝するとともに、今後一層の教育条件の整備充実に努め、健全経営に向けて財政の安定化を計る所存です。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

事務部長　加古　敦久

●同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額

年　度	一般補助金	特別補助金	事務費	総　額	生徒数	一人当たり補助額
平成25年度	393,401千円	15,873千円	894千円	406,234千円	1,151人	352,940円
平成24年度	395,385千円	11,828千円	882千円	408,095千円	1,180人	345,843円

修学旅行

2年生普通科・商業科は3団に分かれ、昨年の12月15日より12月20日にかけて沖縄修学旅行に行ってまいりました。日頃の学校生活を離れ、豊かな自然と文化をたたえる南国沖縄でのさまざまな体験は、参加した生徒たちにとって大変に貴重な学びの機会となりました。各所に残された戦争の記憶と米軍基地問題について学び、ガマの中で行われた平和祈念式典では、不戦と平和な社会を受け継ぐことを誓いました。また今年で7回目となる伊江島民泊体験では、短い時間ではありながらも「伊江島の子」として、各民泊先の家族と交わり、思い出深い体験ができたことと思います。3泊4日の宿泊体験や集団活動の中で、同じ時間を共に過ごした仲間達との思い出の数々は忘れ難いものとなったことでしょう。

この修学旅行を通じて学び、そして感じ取ったさまざまな出来事が今後の生徒たちの更なる成長へとつながることを信じています。今回の旅行を実施する上でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

（2年生学年主任／大野　晋也）

修学旅行 事前学習

英語・国語・社会の授業では、オリジナルテキストを使用して沖縄修学旅行の事前学習を重ねてきました。加えて、修学旅行委員の生徒が作成した壁新聞パネルが1・2階の廊下に掲示され、修学旅行への雰囲気を盛り上げました。これらの事前学習を通して生徒は、「リアルな沖縄」を受信できるアンテナを備えて、修学旅行に出かけました。

修学旅行後の授業で、「沖縄に大切な人はできましたか?」と生徒に尋ねたところ、「伊江島のおじぃ」「ひめゆりのおばあさん」「交流した沖縄の大学生」「辺野古のおじさん」とたくさんの声が返ってきました。生徒は沖縄に大切な人をつくることができたようです。今後、さまざまな沖縄のニュースを見聞きした時は、ぜひその大切な人を思い出してほしいと考えています。自分と関係のない出来事ではなく、大切な人の住む場所で起きていることだからです。

「ゴール」ではなく、今後につながる「ステップ」としての沖縄修学旅行になったと考えています。

（教諭／松田　浩史）

今年度は、団ごとに「平和宣言文」を作成しました。その中の1つを紹介します。

平和宣言文

友達とのたわいもない会話。家族と食べる温かいご飯。「また明日ね」と言える穏やかな日々。私たちが当たり前だと思っているこんなことさえ、このガマに逃げ込んだ人たちはできなかった。

68年前、この沖縄で戦争が起きた。その戦争は、多くの大切なものを奪っていった。家族はバラバラになり、あるガマでは集団自決という悲しい出来事が起きた。この暗闇の中で、食べるものもなく、敵に捕まれば殺されるという恐怖の中で銃声に怯え、息を潜め、多くの人が死んでいった。今の沖縄からは想像もつかない残酷な出来事が確かに起こったのだ。

今、私たちができることは何だろう。彼らの苦しみや死を、周囲や後世の人たちに伝えることで、戦争の悲惨さを多くの人が知り、二度と戦争を起こさない社会をつくりあげていくことに少しでも貢献することだ。沖縄が返還されてから40年以上経ったにもかかわらず、米軍基地は未だに沖縄に存在する。沖縄の戦争は、まだ終わっていない。

この修学旅行をきっかけに、私たちは戦争の悲惨さ、愚かさ、無意味さを知ることができた。私たちのように戦争について学ぶことが、これからの日本や世界の平和に繋がっていくのだと思う。私たちは知らなければならない。私たちが今過ごしている平和な日々が当たり前のものではないことを。

これから私たちは、学んだことを忘れずに生きていくことを約束し、かつて平和を夢見た人々のためにも、平和な世界をつくりあげていくことを誓います。

同朋高等学校　生徒一同

●修学旅行行程表

1日目	中部国際空港 ——→ 那覇空港 ═ 韓国人慰霊塔 ═ 平和記念公園 ═ 荒崎海岸 ═ ひめゆり平和祈念資料館【ひめゆり講演】 ═ ガマ体験 ═ ホテル
2日目	ホテル ═ コース別研修 ═ 本部港 ～～～ 伊江港…… 伊江島民泊（ホームステイ）
3日目	各家庭で体験学習 …… 伊江港 ～～～ 本部港 ═ ホテル
4日目	ホテル ═ 道の駅かでな ═ おきなわワールド ═ 国際通り ═ 那覇空港 ——→ 中部国際空港

修学旅行感想文

命の大切さを実感した修学旅行

髙田　ひかる（簀金中学校出身）

私は今回の修学旅行を通じて多くの人と関わり、そしてさまざまな体験をすることができました。中でも「ヌチ・シヌジガマ」を訪れたことが印象深く残っています。

修学旅行の2日目に訪ねたこのガマは、「命（ヌチ）」を「凌いだ（シヌジ）」ガマと言われており、戦争中に多くの住民の方々の命を救ったガマとしてパワースポットにもなっているとガイドの方がおっしゃいました。私はそんなガマがあって、今でもそれが残っていることに驚きました。奥に入り、耳を澄ましてみると、水が流れる小さな音が聞こえました。この音を聞いて、なぜか心の中がスーッとした感じがしました。事前学習で、他のガマでは集団自決や伝染病などで大勢の方が亡くなったと聞いていたので、より一層この「命（ヌチ）」のガマであるこの場所が印象に残ったのだと思います。また、たくさんの命が戦争で失われているなかで、2人の赤ちゃんがこのガマで生まれたということを聞き感動しました。

沖縄にはたくさんの自然もあり、伊江島で「城山（タッチュー）」に上った時には、そこから見えた景色はすばらしいものでした。伊江島の民泊先では島では人より牛の数が多いということを聞いて、驚かされました。島の反戦平和資料館には沖縄戦で実際に亡くなった方が実際に着ていた服などが展示してあり、悲惨と言う言葉では言い表せない思いを感じました。私はこんな綺麗な伊江島が激戦地であったという事実に悲しくなりました。戦争は人の命を奪うだけでなく、美しい自然も壊していきます。二度とこのような戦争が起きないように私たち自身も将来に向けて努めていきたいです。

沖縄から平和を考える…

下里　光平（蟹江町立蟹江中学校出身）

3泊4日で沖縄へ修学旅行にでかけました。そこで平和ガイドの大島さんから戦争中のことについてたくさん学びました。

はじめに、沖縄に到着した瞬間に戦闘機が数えきれないほどあり驚きました。中には飛び立つ戦闘機もありました。これを見た時に「さすが沖縄だな」と思いました。

那覇空港からバスに乗り、平和祈念公園に行きました。平和の礎では、戦争で亡くなった方の氏名がずらりと書いてありました。第一印象はただ「多いな」と思うくらいでしたが、そこで大島さんの話を聞いて、とても悲しい事があったのだと実感しました。礎に刻まれた氏名の中には、名字と「妻」「夫」「姉」「弟」などとしか刻めなかった氏名がいくつもありました。これは一家全滅で、氏名を確認することができなかったのだそうです。さらに、戦争で亡くなってしまった人々はもっとたくさんいるのに、まだすべて書かれていない現実も知りました。一人でも多く、早く、お名前を確認できたらと思います。

実際に戦争を体験した人の貴重な話も聞けました。その話も印象に残っています。一人で歩いていた時に、たまたま通りかかった米軍に「ぜんざい」をもらったそうです。あまり満足に食べられず、空腹の状態で食べ物をもらったので、その味を今でも忘れられないと話されていました。そんなに空腹になるなんて、今では考えられないので、その当時の酷さが良くわかりました。

1日目の最後にはガマへ入りました。入口が狭く、そして天井は低く、壁はゴツゴツとしていて、とても危なかったです。電気を消すと皆の顔が少しも見えないほど暗く、人がこんな環境で暮らしていたのかと疑問に思うほどでした。その暗い中で平和宣言文を読み、みんなで平和を誓いました。

こうした体験からいつも何気なく当たり前のように生活していることに感謝できたと思います。この体験をしっかり覚えておいて次世代へと伝えていきたいです。

Club & Award News

柔道部

● 第36回尾張･名古屋･知多新人体重別大会

女子48kg級	準優勝	北林	琴美（松坂市立中部中学校出身）
女子48kg級	第三位	橋口	史佳（東海市立平洲中学校出身）
女子52kg級	準優勝	松本	悠里（知多市立旭南中学校出身）
女子63kg級	第三位	金田	美香（宝神中学校出身）
男子60kg級	第三位	伊藤	諒汰（小牧市立小牧中学校出身）
男子66kg級	準優勝	永谷	勇気（東港中学校出身）
男子73kg級	準優勝	加藤	光哉（津島市立暁中学校出身）

● 平成25年度愛知県高等学校新人体育大会柔道競技名南支部予選会

女子団体	優勝
男子団体	4位

ラグビー部

● 第95回全国高等学校ラグビーフットボール大会愛知県大会　ベスト8

女子蹴球部

● 平成25年度愛知県高等学校女子サッカー選手権大会　ベスト4

演劇部

● 第66回中部日本高等学校演劇大会　奨励賞

1年生キャリアセミナー

1年生では、「キャリアデザイン・プログラム」の一環として、12月18日に「キャリアセミナー」を行いました。これは、例年3月に「進路と生き方を考える集い」という名称でおこなってきたものです。医療、福祉、ものづくり、コンピュータ、公務員、ファッション、マスコミなど15の分野で活躍する市民の方、卒業生をお招きして仕事の苦労ややりがい、その仕事に就くまでのことなどを語っていただきました。各分科会2～3名の講師の方からお話をうかがった後、質疑を行いました。

しっかりメモをとりながら参加した生徒たちからは、「参考になった」「お話が聞けてよかった」という感想が多く見られました。

（1年生学年副主任／三井　陽子）

参加した生徒の感想

医療に関わる仕事

最近になり、看護師という仕事に興味を持ちはじめました。今回、実際に看護師の方に話を聞くことができ、今できることも教えていただいて、将来の参考になりました。同じ仕事の人でも、2人の方からのお話が聞けたので、いろいろな人から話を聞く大切さが分かりました。

海外で学ぶ働く

僕はまだ将来の道が決まってないので、とても参考になりました。海外にはとても興味があって、青年海外協力隊に行ってみたいと思っていたので、お話が聞けてよかったです。やはり英語はこれからの職業を考える上で必要になってくるものだろうと思いました。

商業科

学習会を通し、人生を考える

いま、「賢い社会人、賢い消費者の育成」が高校商業教育に対して求められています。それを受け、本校商業科は昨年度より個人のライフプランを資金計画から考える授業「ファイナンシャル・プランニング」を開始し、併せて情報処理の授業を利用し、資産設計シミュレーションに関する授業に取り組んでいます。

そうした取り組みの一環として、今回は商業科3年生を対象に、今まで学んだ内容の集大成である「ライフプラン学習会」を、生命保険会社の協力を得て実施しました。

はじめに、6名で構成したグループごとに、税理士や自動車整備工などといったモデルとなる家族の「夢の人生計画」を立てます。中には、毎年の海外家族旅行や高級車の購入など豪華な人生計画をした結果、とんでもない負債を背負わなければならないグループも現れました。その後、保険会社に所属するファイナンシャル・プランナーのアドバイスのもと、それぞれのライフプランを見直すと、負債を背負うどころか貯蓄を蓄えながら生活できるようにと変化しました。

生徒からは、「自分の人生だから、しっかり考えてお金を準備して、将来設計をしていきたい」「自分の身の丈に合った生活をしていきたい」といった感想だけでなく、「他人の人生をサポートする、ファイナンシャル・プランナーという仕事に興味を持った」という感想も寄せられました。

今後も、賢い社会人・賢い消費者を育てる教育を提供できるよう、新しい授業づくりに取り組んでいきます。

（商業科主任／平野　裕騎）

音楽科

第45回卒業演奏会

1月10日（金）、電気文化会館ザ・コンサートホールを会場に、音楽科生徒による「第45回卒業演奏会」を行いました。

この演奏会は年3回ある音楽科の定期演奏会の最後を飾るもので、オーディションで選ばれた3年生が出演しました。

高校生活最後の締めくくりとなるステージで、ピアノ、ヴァイオリン、サックス、声楽、電子オルガン、作曲を専攻する生徒たちが、熱のこもった演奏を披露し、多数の観客のみなさんから惜しみない拍手をいただきました。

オーストリア修学旅行

3月2日から13日の予定で、2年生音楽科の生徒が、オーストリアのウィーンとザルツブルクへ修学旅行に出かけます。楽聖たちの史跡をたどり、国立オペラ座やミラベル宮殿を見学します。また、平和学習の一環として、ナチス強制収容所を訪れます。

同朋高校の現状から何が見えたか？

話す・伝える・考える　～現実・その先の未来へ～

12月7日、多目的ホールをメイン会場に約100名の生徒・保護者・教員が集まり、「話す・伝える・考える　～現実・その先の未来へ～」をスローガンにした「同朋オープン・フォーラム2013」が開催されました。全体会では同朋高校の現状やこれから目指す方向について、3つの分野で教員がレポートする形式をとりました。各レポートは、10分程度という短い時間ではありましたが、それぞれの分野における同朋の現状とこれからの問題点がコンパクトにまとめられており、今後の課題について、分科会で話し合うきっかけとなりました。

全体会の後、3つのテーマ（文化祭・キャリア教育・生徒の生活実態）で分科会が開催され、それぞれの分科会でもこの3本のレポートをもとに生徒・保護者・教員の三者で制限時間いっぱいまで活発な討論が行われました。

（フォーラム実行委員会事務局／瀧　正範）

文化祭について

生徒の文化祭アンケートに基づき、今年度の文化祭の成果と問題点を紹介し、文化祭は「文化の祭り」という位置づけで、どう盛り上げていくかが課題だとレポートされました。参加者の感想では「『文化の祭り』という言葉はステキだと感じました。文化祭のクラス企画も感動するものが多かった気がします。先生たちの指導の熱意が伝わりました。」というものがあり、参加者へ文化祭に寄せる担当教員の思いが伝わったと思われます。

（生徒会担当教員／小堀）

キャリアデザイン教育の取り組みについて

同朋のキャリアデザインの基本的な考え方と今年度のキャリアデザイン教育の取り組みについて、生徒向けの配布物や資料に基づき、丁寧に報告されました。「働くことへの理解、興味、憧れだけでなく、実感が必要!!生徒たちの自分の将来を意識する発言が増えているのも指導のおかげだと思いました。」という感想から、キャリアデザイン教育に対する保護者の理解が深まったようです。

（進路指導担当教員／寺町）

アンケートから見る生徒の生活実態

新たに実施したアンケートの分析に基づき、生徒の学習実態と生活実態に鋭く切り込んだレポートは参加者の関心を引くものとなりました。学習については、4月に比べ学習する生徒が増えたものの、「ほとんど学習しない」生徒も多く、家庭での過ごし方では携帯電話（スマホ）の使用時間の長さが突出しており、携帯電話へ依存度が問題点としての挙げられました。参加者の感想では「携帯電話の使用時間また勉強時間の事など我が家でも子供たちと話し合いをし、より良い生活を送りたいと思いました。」など、学習実態や携帯電話の問題について参加者に訴えるものがあったようです。

（教務担当教員／滝）

報恩講

11月28日は、真宗をひらかれた親鸞聖人のご命日です。

報恩講とは、親鸞聖人をはじめ、自分にまでお念仏の教えを伝えてくださった先輩方に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる御仏事です。同時にそれ　は親鸞聖人の言葉に出遇い、自らの生活を振り返るお勤めでもあります。

親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校は、12月3日に1年生全生徒が参加して報恩講を行いました。各学科代表の生徒による献花や音楽科の生徒た　ちによる「三帰依文」が勤められたほか、今年度は養照寺より一柳智史様にお越しいただき、“共なるいのち”についてご法話をいただきました。

1年に1度、お念仏の教えに出遇い、自分を見つめ直し、「同朋」という、他者と認め合い、共に生きていけるご縁となれば幸いです。

（宗教主任／柏原　良教）

生徒会長	中嶋　　駿	（山田中学校出身）
副会長	小野田　龍	（駒方中学校出身）
	奥村　優佳	（長良中学校出身）
執行委員	佐藤　文紀	（昭和橋中学校出身）
	向井　昇平	（港南中学校出身）
	山本　沙矢香	（豊国中学校出身）
	恒川　未来	（豊国中学校出身）

2013年度後期生徒会役員が決まりました

生徒会選挙前に、「同朋高校の生徒会は、風紀委員ではない。しかし、生徒のワガママを通す団体でもない。」という言葉を聞き、自分なりに理解して「改革とわがままは紙一重だが違うものです」という演説をしました。

同朋高校は良い意味で自由です。だからこそ、自分たちでいろんな人の立場や考えを知って、納得できる生徒会活動にしていきたいと思います。

（生徒会長／中嶋　駿）